

平成19年度



社会福祉法人はばたき福祉事業団  
事業報告書

平成19年4月1日 から 平成20年3月31日まで

平成20年 3月31日

## 社会福祉法人はばたき福祉事業団 平成19年度事業報告

**HIV/AIDS 偏見・差別** 19年度は、HIV感染者・被害者全体が不安なく生活できる HIV/AIDS 偏見・差別の解消の切り口として、就労の問題に着手した。「HIV感染者就労のための協働シンポジウム」「HIV感染に係わる障害者自立総合支援プログラム」「マイクロソフト NPO 支援プログラム」の3つの助成事業を行った。

**相談** 患者・家族や遺族の相談を恒久的につなげていくため、19年度から本部事務所に専門家相談員がつめて、相談員のアドバイスやケース整理などを行う。なお、4年前から継続的に行っている週1回のケースカンファレンスで、専門家相談員からの多くの指摘を受け、相談対応が「問題解決型相談」と評価も受ける。一方、HIV/HCV 重複感染で肝硬変・肝ガンで亡くなる人は多く、治療検診や自己管理への積極的治療意欲をアンケートを通して探り始めている。残念ながら未だに効果的な具体策が出てこないため、個別聞き取りなどを行う方向。

**医療** HIV感染者増加に、薬害エイズ被害当事者団体として HIV/AIDS に苦しむ人を増やしたくない、心配な人は早く救いたいと北海道支部を中心に HIV 検査・相談室「サークルさっぽろ」を国・札幌市の委託事業として実施、日本でのモデル施設として開設。

また、抗 HIV 薬で新たな作用効果を示すインテグラーゼ阻害剤の治験が海外で始まり、日本で初めて国内にいながら海外治験に参加するルートを作った。耐性ウイルスへの効果はすばらしく、CD4 値一桁の患者が 200 前後になってきた。中だるみになっている ACC・ブロック拠点病院の医療姿勢に、設置後 10 年経つところから、5 年、10 年先の先端医療を見据えたものを考えるよう提示していく取っ掛かりをつけた。

**遺族** 公益事業として位置づけている遺族事業は、献花が猛暑化傾向から 8 月 24 日「薬害根絶誓いの碑」建立記念日に行っていたのを 19 年度で打ち切り、3 月 29 日の和解の日に行うことに変更。そのため、19 年度は 2 度献花を行うこととなった。遺族相談会は 2 回、神戸と佐賀で行い、特に佐賀は当地の「がばいばあちゃん」のお話を聞く一歩社会に踏み出した形で行われた。

薬害エイズ事件がいつまでも広く社会の人たちに伝わって欲しいとの願いで始まった「はばたきチャリティーコンサート」は第 4 回になった。常に 300 人以上の来場者があり、19 年度は遺族から寄せられた詩を池辺晋一郎氏のピアノ即興とともに迫田朋子さんが朗読された。来年度は記念すべき第 5 回となる。その他に、はばたきホームページは多くの人に見られるようになった。「和解記念集会」については、今年度も 3 月 29 日の「和解 12 周年記念集会」の企画・運営をはばたき福祉事業団が行った。国の代わりに、社会の人たちに薬害エイズ被害を永遠に伝え、また亡くなった人たちへの追悼を呼びかける機会とした。

# I. 社会福祉事業

## 1. 身体障害者の更生相談に応ずる事業

### (1) HIV 感染症や血友病の障害者等にかかわる自立や医療健康相談の対応

事務所にて、患者・家族からの電話・手紙等郵便物・メールや相談室での面接による来訪相談を行う。また事務所は、相談員・事務補助及び職員により、地域性を考慮した相談会の企画・運営を行うなど、相談事業運営にあたっている。

法人の行う相談事業は、『一人一人を大切に』を課題に、個別相談を中心にして、ここの段階に応じたフォローを行っている。各種相談事例を事務局全体で受け止め、相談者の負担軽減が少しでも向上するよう適切且つ継続的な対応と、対応の質の向上を図るため、週1回ケースカンファレンスを行っている。このケースカンファレンスには固定の専門家相談員に参加してもらい、総合判断力とスムーズな対応の向上に努めている。なお、調査・アンケート等で、回答した多くの人は住所・電話など連絡先や近況を丁寧に記載しており、相談事業・事務所とのつながりがより身近になっている。しかし、連絡が難しい人へのアプローチの課題があるのをどうフォローしていくかを専門家相談員と検討を始めた。事務所にて、患者・家族・遺族からの電話・手紙等郵便物・メールや相談室での面接による来訪相談を行う。また事務所は、相談員・事務補助及び職員により、地域性を考慮した相談会の企画・運営を行うなど、相談事業運営にあたっている。

13年度から始めた「はばたきライブラリー」は、HIV 感染症・血友病・薬害エイズ関連資料・福祉・医療等々の資料整理が進んでいる。また、閲覧希望者などに対応している。特に、HIV・血友病等に関する資料や医療情報を、相談に生かすとともに、はばたき福祉事業団の講演会・相談会等で資料提供に役立っている。ライブラリーで行っている「はばたきホームページ」にも活用し、HIV 感染等々に係わる障害者の啓発、差別・偏見解消の取組みなど、はばたき福祉事業団を広く知ってもらうための広報に努め、ホームページも随時更新して常に新しい情報を伝えるようにしている。今年度からマイクロソフト社の補助を得て「Habataki Wave」を開設、就労シンポなどの情報提供を行っている。ホームページのアクセス頻度も前年度比、2.1 倍に増え、187,332 人に達した。バーチャル資料館としての整備をさらに進めている。

#### ①電話相談

相談員等による電話相談窓口を開設し、HIV 感染症患者／障害者・家族等からの電話による相談を相談員・専門家相談員等が受けた。相談内容によっては、専門家、弁護士、ACC・ブロック拠点病院を紹介したり、関係機関に、問い合わせ等をして積極的に相談事例に対応した。

電話相談件数全体は昨年より減少。中部支部以外の支部での電話相談件数減少による（17年度；242件、18年度；514件）している。フリーダイヤル利用は、継続的相談者での利用が多いが、今年度は減少。メールによる相談件数は今年度増加。手紙相談が倍となる。

電話・メール・手紙による月間相談件数。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	20	21	21	20	23	18	22	21	18	18	20	20	242
電話相談	44	30	36	28	30	25	43	28	24	20	40	16	364
メール相談	2	7	3	3	5	5	8	0	5	8	5	5	56
手紙相談	0	8	0	0	2	1	0	0	2	1	0	0	14

#### ②個別面接相談

事務所相談室（相談室1及び相談室2）で、相談員等による遺族・患者・家族等の面接相談を行っている。今年度は遺族・患者・家族の事務所での面接相談は34件。（17年度；13件、18年度；44件）。患者・家族は、就職・年金・医療支援など社会生活上の相談、HIV/HCV 重複感染悪化による医療やガン・悪性リンパ腫治療の先駆的医療相談、血友病治療・遺伝の相談も目立つ。ガンや悪性腫瘍・肝硬変など

生死にかかわる深刻な相談が増えている。安定している患者・遺族のアクセスは減少、遺族からの面接相談は遺族であり二次感染被害者の健康や将来の相談や、娘等々、親族の血友病遺伝の相談が増えている。（\*資料1参照）

ケースカンファレンスを通して専門家相談員からの面接対応のアドバイスを受け、相談員等が積極的に対応している。

面接相談件数（月別）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	20	21	21	20	23	18	22	21	18	18	20	20	242
相談件数	3	6	1	2	0	2	6	7	1	1	3	2	34

※18年；44件

### ③訪問相談

患者・家族・遺族等などからの要請によって、相談者の自宅もしくは入院中の病院、相談者の希望する場所に、相談員・専門家相談員が出向き相談を受けた。17年度から訪問相談は被害者の自宅への訪問相談が多くなり、当事業団との接点において、プライバシーを気にしていた時代からかなり変化をしてくれているのが実感できた。身近な被害者の生活全体を共有することで、より深まった相談の実績が上がった。被害者が少しずつ社会との接点をもてる自己意識の変化につなげたい。

19年度訪問相談月間件数。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談件数	19	6	5	5	0	3	11	8	3	2	1	0	63

17年度；46件、18年度；64件

### ④相談会

各地域の実情にあった医療講演会・相談会を行なった。また、ACC・ブロック拠点病院での協議などに地元患者・家族の相談会を実施。開催地区；北海道地区8回、東北地区4回、関東甲信越地区17回、東海中部地区4回、九州地区2回。計35回行った。

### ⑤ケースカンファレンス

ケースカンファレンスを1回/週（木曜日または金曜日 10:30～12:00）、定期的に行った。参加者は、はばたき相談員等と専任の専門家相談員。相談事例によっては支部・地域相談員も参加。ケースカンファレンスでは、電話、手紙、メール、来訪、訪問での相談者、のぞみの会等の相談会の参加者もカンファレンスの対象とした。ケースカンファレンスを行うことによって、被害者一人一人のケースフォローが深まった。相談事例を専門家相談員とともに検討することで、相談員等のレベルアップにつながっている。検討事例 590件、昨年度比2.2倍増。（\*資料3参照）

ケース検討月間件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月回数	4	4	4	4	5	4	4	4	3	4	4	4	44
検討件数	124	87	90	38	59	61	53	43	34	37	55	32	712

※17年度累計数；272件、18年度；39回/590件

### ⑥ライブラリー

#### ○資料収集・管理について

13年度に開設したライブラリーは6年目を迎える。電子保存化したものは、現在はホームページの貴重な情報提供等の基となっている。また、公開については、分類を進め次年度、順次ホームページ上に掲載してバーチャル資料館の役割を高めている。

## 電子保存化した資料件数

	新聞記事	雑誌・単行本・冊子
4月～3月	2,798件	629件

### ○ホームページ

はばたき福祉事業団のホームページでは、最新の情報を発信できるように担当職員と専門家指導員が運営に力を入れてきた。特に18年度からは映像も取り入れ、画面上での関心と呼ぶ工夫を行った。毎月始めに、打合せを行い、常に新しい情報の展開と提供に努めてきた。そのため、アクセス頻度が大きく高まっている。薬害エイズ関連の情報提供、再発防止のための取り組みとして血液事業・献血推進や医療について積極的な情報を掲載している。バーチャル資料館の役割を担う大きな支えになっている。今年度はマイクロソフト社の助成を受け、Habataki Wave を開設し、特に社会参加・就労への自立支援の情報提供に努めている（平成20年5月31日までの助成事業）。

アクセス数月間推移。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日平均	357	394	568	677	537	549	560	455	497	554	495	486
月合計	10,735	12,240	17,055	21,013	16,667	16,496	17,371	13,670	15,426	17,197	14,371	15,091
累計	10,735	22,975	40,030	61,043	77,710	94,206	111,577	125,247	140,673	157,870	172,241	187,332

※17年度累計アクセス数；41,733、18年度；88,554件

### ⑦自立支援資料の作成等

○『壁新聞』の発行 1回（33号）発行。19年度は、事業過渡期中で、スタッフ力量が不足したことを反省とする。

相談事業をより身近なものとして、相談しやすさを広報するため、はばたき福祉事業団相談員・事務局が「壁新聞」を編集・発行している。

○『院内・院外処方せん利用と、薬の持ち帰り方法について』『歯科診療アンケート』患者本位の病院体制になっているか検証するための、薬局での薬の持ち帰り方、歯科診療の通院交通手段と通院時間のアンケート調査を行った。現在、院外薬局による血液凝固因子製剤等の宅配システムのモデル事業を実行中。

○『上場企業1000社アンケート』雇用の受け入れ先となるHIV感染者の就労やその意識について上場企業1000社にアンケート調査。回収率4%で、感染者の健康を心配しての拒否理由が多い。

○『就労アンケート』北海道支部では、HIV感染者就労のための協働シンポジウム後の、全国4地区報告会を機にアンケートを行う。

○『HIV感染者就労のための協働シンポジウム（19年10月14日）報告書』官民協働の就労環境整備に向けてアピールの機会とした。

○『企業、ハローワークへのフォーカスグループインタビュー調査』就労に最も関係する企業やハローワークの取り組みや意識の準備調査として開始。

○『はたらくBOOK』就労に際して、免疫機能障害の障害者手帳の有効利用と具体的方法を簡易ブック版で全国に配布。1刷2000部は直ぐ品切れ。増刷や大量希望が多数。

○『エイズ学会参加第2回スカラシップ委員会報告書（共同発行）』HIV感染当事者団体等5団体でエイズ学会参加の会費・旅費補助のため、寄付を募り、選考に該当した感染当事者に補助。19年度は43人（前年度33人）が参加して、HIV感染症の最新の治療や医療環境などを勉強する機会とした。所定のシンポジウムと報告書提出の義務がある。

### ⑧研修会事業

相談事業をより充実させそして円滑に遂行するため、相談員等が、当事業団運営や相談事業について研鑽するとともに、質的向上を目的とするため研修会を行った。相談内容が複雑、かつ多様化しているため、専門家相談員ともども、医薬を含めたHIV・HCV・血友病への対処、年金・健康保険システム・社会的支援への対処や、救済に関する迅速な対応を勉強する。また、社会福祉法人として公的仕事に従事

することから、社会福祉法人として相談事業の取り組み等々の研修を行う。また、被害患者の病状が厳しいところから、事業団全体でフォローし、医療機関にも積極的に働きかけて治療の機会を逸さないよう共通理解を高めた。

6回実施（東京6回）（資料8参照）

## ⑨ 検診事業

HIV, HCV など治療の中身の評価も含めセカンドオピニオンをACC治療検診として実施。11年が経過している。HIV/HCVの重複感染について厳しい現状から、病状の現状に向き合えていないことから悪化させているケースが目立つ。 検診参加者：4人（北海道地域2人、東海・中部地域1、九州地域1人）

## ⑩ 患者・家族支援事業

ACCや首都圏病院で家族が入院患者の看病のため利用したり、遠方の患者が外来受診のため利用するために、当事業団は相談室別室を用意している。今年度の利用は昨年より減少。理由として、専門的治療が必要な患者が増えていたが、今年度はやや落ち着いている。一方、大阪原告被害者の利用がやや増加している。 相談室別室利用：90日使用

## 2. 法人本部

はばたき福祉事業団は、平成18年8月28日、厚生労働大臣認可の第2種社会福祉事業を行う社会福祉法人として認可された。同年8月30日設立（設立登記）。

はばたき福祉事業団は、1997年4月設立後、9年を経て社会福祉法人となる。社会福祉法人格を得て相談事業を核に、薬害HIV感染被害者を中心とした事業団職員が被害救済と被害教訓及び事業実績を生かして社会福祉に貢献することにより、当初の設立目的の被害救済と公共の福祉に対する事業をさらに広がりを持って行うことができるようになった。

はばたき福祉事業団法人の経営は、社会福祉法人はばたき福祉事業団役員（理事8人、監事2人）の理事会の決定に基づき運営される。そして、運営等について評議員会（評議員21人）の諮問を受ける。

理事会で決定された法人運営は、理事長、事務局長（1人）のもとに支部事務局長（3人）、常用職員（4人）、非常用職員（相談員を含む19人）が、実務を執行。

社会福祉法人はばたき福祉事業団は、社会福祉事業と公益事業の2事業を遂行する。主たる事業になる社会福祉事業は、厚生労働大臣認可の全国法人としても稀な存在（障害者相談事業主体）の運営は、これまで培ってきた救済事業としての相談事業を更に拡張し、HIV感染者や血友病などの障害者手帳を持つ障害者・家族の相談事業を担っている。また、これまで相談事業の中で行われていた薬害エイズ感染被害者遺族等については、公益事業として遺族救済としてさらに充実化に努めている。

### (1) 本部・支部事務所

- ① 業務時間 午前9時30分～午後5時
- ② 業務担当 事務局長、支部事務局長、会計担当者、ホームページ担当職員を定めた。
- ③ 事業設備 本部：東京都新宿区新小川町9-20 新小川町ビル5階  
北海道支部：北海道札幌市 東北支部：宮城県仙台市  
中部支部：岐阜県各務原市 九州支部：福岡県福岡市
- ④ 職員・非常勤職員  
常用職員：6人（本部3人、北海道支部1人、東北支部1人、九州支部1人）  
非常勤職員：7人（本部3人、北海道支部2人、九州支部2人）

相談員： 12人（本部8人、東北支部1人、中部支部2人、九州支部1人）

## (2) 運営資金

通常経費	・事業運営資金	¥32,604,569円
	・補助金 ①平成19年度エイズ患者遺族等相談事業 委託費	
	(委託者：財団法人友愛福祉財団)	¥37,198,455円
	②札幌検査・相談室「サークルさっぽろ」	
	(委託者：札幌市)	¥9,300,000円
	・助成金 ①平成19年度独立行政法人福祉医療機構（高齢者・障害者福祉基金）	¥2,000,000円
	②第5回マイクロソフトNPO支援事業	¥3,000,000円
	③平成19年度障害者保健福祉推進事業（障害者自立支援調査研究プロジェクト・HIV感染にかかる障害者自立総合支援プログラム等研究開発事業）	¥11,400,000円
	・賛助会費・寄附金	¥3,643,735円
	①賛助会費	¥1,100,000円
	②寄付金	¥2,543,735円

## II. 公益事業

### 1. 薬害エイズ遺族等支援事業

#### (1) 相談事業

遺族等に対する相談は、本部・4支部で電話や面接などの事務所相談、地方相談会の開催や訪問相談を行っている。19年度は、専門家相談員の配置などから、出向いての相談を心がけた。一方、遺族等の高齢化などから、連絡のとりにくい人や、亡くなった遺族等の継承人が薬害エイズ被害を説明されていないことなどから、連絡が続かなくなりケースが増えている。それでも、献花や相談会、近況伺いやメモリアルコンサートなどを通して、遺族とのつながりを保つ努力を重ねた。19年度も新たな遺族が生じ、悲劇の途絶えはなくなる。

電話・メール・手紙による遺族月間相談件数。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	20	21	21	20	23	18	22	21	18	18	20	20	242
電話相談	6	12	15	0	10	7	3	10	5	10	10	6	94
手紙相談	0	3	3	0	9	22	4	0	0	2	4	2	49

#### (2) 遺族相談会

遺族相談会は、東京・大阪の遺族相談員が遺族交流の意味を含めて合同で企画・開催している。当事業団では企画・実施担当である遺族相談員と共に、事務局全体で対応した。18年度から年2回実施。遺族相談会は担当する遺族相談員のみが現場での対応をするため、相談員の高齢化や参加する遺族被害者の高齢化等々も考え年2回の開催としている。企画にあたっては、小人数のグループに分かれての話し合いを中心に行い、遺族同士が他で話せない事も気兼ねなく話すことが出来るように十分に配慮し実施している。一方、遺族の自立を促す役割も大切で、開催に際してきただけ社会との接点を広げられるよう考慮している。『遺族相談会（のぞみの会）』の参加は、遺族と担当相談員、専門家相談員や弁護士。個別相談の希望者には相談員、専門家相談員、そして必要なときは弁護士が対応している。参加人数は、

昨年度より減少したが、初めて参加する遺族も微増している。（\*資料5参照）

なお、当事業団ではその補完的な小さな地域遺族相談会を年4回、全国で実施し、集まりをきっかけに、周囲に打ち明けられないことが少しでも安心して話せる機会を増やしていくことを目指した。この5年を見ても、亡くなる被害者が年間10人以上おり、新たに遺族になる人が増えていることは慙愧に耐えない。

今後の課題は、年老いた遺族や遺族になって間もない人たちへの対応と参加を促すための広報を検討しなければならないことである。『遺族相談会（のぞみの会）』2回開催

- ① 1回：平成19年5月20日（兵庫県神戸） 36人参加
- ② 2回：平成19年10月28日（佐賀県武雄） 48人参加

### (3) 地域遺族相談会

一昨年度から、地域限定のはばたき遺族相談会を開催し、年2回になった遺族相談会（のぞみの会）を補完するとともに、より個別対応の充実を目指した。本部と支部の連携の下に、地域の実情を考慮した相談会を地域相談会として開催した。4回（中四国地区1回、関東甲信越地区1回、九州地域1回、沖縄地域1回）

### (4) 広報

○『遺族相談会（のぞみの会）交通費補助等のルール説明』の発行

遺族相談会『のぞみの会』が、今後も継続的に開催が続くよう、はばたき福祉事業団の財源等を考慮した交通費支給ルールを配布。

○『献花アンケート』19年度は2回献花を行ったので、遺族への献花アンケートも2回行う。このアンケートにより、北海道から沖縄に散在する遺族の実情や近況を知ることができ、遺族対応に生かす大切な情報となる。

## 2. 調査研究事業

16年度に設置した「薬害HIV感染者遺族等に対する健康被害の対応に係わる調査研究会」での検討をもとに、17年度末に同調査研究会の報告書をまとめ、19年度には本部に相談員を専門的にサポートしてより有効に社会資源を活用した相談連携を展開するため、専門家相談員（1人）を配置することができた。今後、日程を調整し2人（公衆保健学、精神保健福祉士）体制の予定。これにより、当事業団が主体的に取り組む調査研究事業も進めたい。フットワークの良い相談活動をする基礎が固まった。

## 3. 教育啓発事業

①機関紙発行

②第4回はばたきメモリアルコンサート（2月29日）開催 日本大学カザルスホール

作曲家 池辺晋一郎氏がメモリアルコンサートの総合音楽監督を務める。第4回コンサートでは、遺族の作った詩や散文を迫田朋子氏朗読、池辺晋一郎氏が即興で伴奏を行い感動を呼んだ。多くの賛同者により、第4回のコンサートを迎えるに至った。今後も薬害エイズ被害を音楽を通して永遠に伝えるために努力したい。

## 平成 19 年度遺族等相談事業資料

### 資料 1. 来訪（来所）相談事例から

4月10日	栃木県在住		患者医療・看病・生活相談
4月27日	栃木県在住		家族看病・宿泊利用相談
5月17日	東京都在住		股関節の具合と近況報告（他1件）
7月6日	岐阜県在住		抗HIV薬変更、HCV治療、兄弟の治療相談
9月13日	新潟県在住		就労についての相談
9月13日	東京都在住		患者・家族医療と就労の相談
10月3日	埼玉県在住		障害基礎年金相談
10月9日	神奈川県在住		経済的自立の手段や生活相談
10月24日	静岡県在住		患者・家族医療生活相談（治療検診）
11月5日	栃木県在住		患者・家族医療生活相談（病状報告）
11月22日	東京都在住		患者医療相談（リンパ腫等病状）
11月27日	東京都在住		患者医療・生活相談（生活困窮）
2月13日	東京都在住		患者医療・年金相談（障害基礎年金）
3月7日	茨城県在住		患者・家族医療／検査相談
北海道		2	近況報告・INF治療と血小板減少
東北		1 3	近況報告・就職・就労継続と体験・治療検診・服薬変更・カンジダ症
中部		1	遺族兄近況報告・
九州		3	遺族家族と地域とのかかわり・近況報告・凝固因子製剤
総数		3 4件	

### 資料 2. 訪問相談事例から

4月3日	東京	病院	沖縄在住者、薬剤変更の不安と医療者との考え方の違い
4月3日	大阪	病院	兄弟の死亡経過や原因への不信
4月17日	東京	病院	肝硬変治療、患者・家族医療相談
4月17日	東京	病院	神奈川在住、突然の関節内出血看病、家族医療相談
5月15日	埼玉	病院	子どもを持ち父親としての自覚と体調管理
5月29日	沖縄	自宅	患者訪問相談（障害年金・健康管理手当等）
5月29日	沖縄	会議室	遺族訪問相談（心境・生活）
6月12日	大阪	病院	患者訪問相談（近況と医療環境）
6月12日	東京	病院	患者・家族医療相談（HCVと看病）
6月19日	東京	病院	患者訪問相談（HCV、視力や目の調子）
6月19日	北海道	支部事務所・札幌市役所	患者訪問相談（治療・家族・生活）/札幌市地域保険との情報交換
6月27日	福島	病院	患者医療相談・食道静脈瘤処置について
6月26日	新潟	病院	患者・家族訪問相談（挙児と体調・生活）
7月4日	東京	病院	治療検診、患者訪問相談
7月10日	東京	病院	患者訪問相談（自立支援医療の手続きなど）
7月25日	山梨	自宅	遺族・患者訪問相談（がんの不安等病状・家族・治療）
7月29日	茨城	自宅	患者訪問相談（脳症の看病と治療体制・地域支援・家族）
9月11日	東京	病院	患者訪問相談（体調の心配）
9月11日	東京	病院	患者訪問相談（INF大量投与開始）

10月2日	東京	病院	患者・家族訪問相談（生活・経済的不安）
10月2日	東京	病院	患者訪問相談（INF治療の継続）
10月2日	東京	病院	患者訪問相談（海外旅行の際のアドバイス）
10月17日	茨城	自宅	患者・家族訪問相談（看病・介護・医療費・家族・地域支援）ACC/CN同行
10月31日	東京	病院	患者訪問相談（エイズ学会参加について）
11月8日	名古屋	自宅	遺族訪問相談（近況・臓器提供後の病状）
11月13日	東京	病院	患者訪問相談（治療、生活）
11月13日	東京	病院	患者訪問相談（体調不良）
11月20日	山梨	自宅	遺族・患者訪問相談（体調不安・家族・近況）
11月20日	東京	病院	患者訪問相談（治療、生活、家族問題）
12月15日	愛知県	自宅	患者・家族訪問相談（病状・治療内容）
12月18日	東京	病院	患者訪問相談（INF治療）
12月20日	東京	自宅	遺族訪問相談（近況、生活、心境）
1月28日	岐阜	自宅	遺族訪問相談（近況・心境）
1月29日	札幌	支部事務所	支部職員面接訪問相談（就労・心境・生活）
2月7日	東京	自宅	遺族訪問相談（孫の心配）
2月7日	福井	会場	遺族訪問相談（心境・生活・孫の医療）
	北海道	1	血友病治療と股関節障害・
	東北	5	近況伺い。医療機関受診と利用。HIV治療や薬の効果不信。
	中部	4	遺族相談・患者相談・弁護士事務所での情報交換
	九州	1	近況報告
総数		63件	

### 資料3. ケースカンファレンス検討件数と事例

回	日付	検討相談（件数）	主な事例への対応
1	4月5日（木）	19	障害基礎年金の再認定申請
2	4月12日（木）	28	遺族と孫（血友病）の将来
3	4月20日（木）	25	医療制度の不安、北海道地域の患者フォロー
4	4月27日（木）	52	東北地域の患者の医療について
5	5月11日（金）	23	生命保険加入について、海外治験参加
6	5月17日（木）	36	相談室別室（宿泊施設）利用
7	5月24日（木）	13	送付した不要な書類の処分と返送システム
8	5月31日（木）	15	INF治療費についての地方病院の無理解
9	6月8日（金）	23	生体肝移植、HIV感染の偏見
10	6月15日（金）	24	沖縄地域の遺族の実態
11	6月21日（木）	16	血友病医療、整形外科、結婚問題
12	6月28日（木）	27	遺族からの手紙から伺える近況
13	7月5日（木）	11	遺族・二次感染者の医療と生活
14	7月13日（金）	6	PML発症患者の看病と支援地域連携
15	7月20日（金）	11	治療検診から見る患者・家族の実情
16	7月26日（木）	10	HIV治療と医療機関の対応
17	8月3日（金）	9	裁判・和解の相談
18	8月9日（木）	9	訪問相談での検討・HIV感染者/遺族の老後不安
19	8月16日（木）	9	医療機関の円滑利用について
20	8月24日（金）	12	献花問い合わせ、障害基礎年金申請
21	8月31日（金）	19	外科処置のその後の止血管理と不安、献花の礼

22	9月7日(金)	7	献花の礼から検討、患者の治療など近況検討
23	9月14日(金)	20	福祉の活用、HIV/血友病への偏見
24	9月21日(金)	30	患者の母親の話し合い、その機会の確保
25	9月27日(木)	4	遺族相談会の問い合わせなど
26	10月5日(金)	27	献花アンケートから遺族の生活を検討
27	10月11日(木)	7	医療機関への遠慮と、自立の促し
28	10月19日(金)	13	感染不安相談、検査相談
29	10月25日(木)	6	就労シンポジウム、社会参加について
30	11月2日(金)	5	ACC治療検診の問い合わせ及び推奨について
31	11月9日(金)	13	遺族相談会での対応検討
32	11月22日(木)	19	エイズ学会参加の問合せ、献花の相談
33	11月30日(金)	6	遺族のPTSD様症状対応
34	12月7日(金)	2	遺族の近況報告と悲哀
35	12月21日(金)	22	日和見感染症(ホジキンリンパ腫)、患者死亡報告とその検討
36	12月27日(木)	10	小児の親から血友病製剤の安全性不信
37	1月11日(金)	13	肝細胞がん治療の情報、C型肝炎訴訟クレーム
38	1月17日(木)	4	肝硬変、血友病患者の進学・就職について
39	1月25日(金)	9	C型肝炎問題で血友病が外された不満や訴え
40	1月31日(木)	11	C型肝炎問題への不満と対応相談
41	2月8日(木)	22	血友病治療、肝硬変治療について
42	2月15日(金)	21	遺族と遺伝により孫に出現した血友病治療
43	2月21日(木)	5	一人住まいの遺族について
44	2月28日(木)	7	精神疾患のケアについて
45	3月6日(木)	12	障害基礎年金受給相談、メモリアルコンサートに関連して
46	3月13日(木)	8	発症者手当、障害基礎年金相談
47	3月21日(金)	4	重症患者の看病・緩和ケアの対応
48	3月28日(金)	8	HIV感染者就労の相談、生体肝移植への取り組みと家族の対応
総数		712件	

18年度；590件

#### 資料4. 遺族相談会(のぞみの会)第1回

開催日	平成19年5月20日(日) 9:20-14:00
開催場所	<神戸グリーンヒルホテル> 兵庫県神戸市
参加人数	36人(はばたき内訳:遺族17人、専門家相談員0人、弁護士2人)
主な事項	講演:『介護制度について<転ばぬ先の知恵>』老人福祉の仕事に携って26年になり、介護制度などに精通している当事者遺族から高齢化社会を迎えての介護などの知識についての話。講師:藤澤氏(遺族) 講演:『後見人制度について<知って得をする法律について>』遺族の高齢化などから、後見人制度を学び、老後の対策の一つとして話を聞く。講師:松本弁護士 全体会:各グループに分かれて交流・報告会。リラックス体操。etc

#### 遺族相談会(のぞみの会)第2回

開催日	平成19年10月28日(日) 9:00-14:00
開催場所	<佐賀県ウェルハートピア武雄> 佐賀県武雄市
参加人数	48人(はばたき内訳:遺族22人、弁護士3人、専門家相談員1人)

主な事項	講演：『がばいばあちゃんの長生きの秘訣』 講師：永松榮子（元教員・教育委員 81歳。武雄市「がばいばあちゃん」の一人） 永松さんから元気と人のために生きることなど人生経験を得る。 講演：『佐賀のがばいばあちゃん誕生の話』 講師：犬塚浩之（武雄市営業部観光課 佐賀のがばいばあちゃん課） 『からだをほぐしましょう』 講師：関由起子（専門家相談員・埼玉大学保健学科准教授）。『グループ交流会』（今も、差別の中で生きている現状を思い熱い思いがあった）、『全体会』。
------	---

## 地方相談会

### 資料5. 医療相談会

#### <北海道地区>

相談会名	医療情報交換会・相談会（対象：北海道）	開催日	19年6月4日
会場	<KKRホテル札幌> 北海道札幌市	参加人数	11人
内容	内容：<札幌医療相談会・講演会>		

相談会名	医療情報交換会・相談会（対象：北海道）	開催日	19年8月18日
会場	<定山溪ビューホテル> 北海道札幌市	参加人数	30人
内容	内容：「北海道血友病医療相談会・医療講演会」		

相談会名	医療情報交換会・医療相談会（対象：北海道）	開催日	19年12月7日
会場	<ホテル札幌ガーデンパレス> 北海道札幌市	参加人数	20人
内容	内容：北海道ブロック拠点病院三者協議前の事前相談会。患者・家族が参加し、北海道大学病院や旭川医科大学病院等の医療環境などの相談を行う。		

#### <東北地区>

相談会名	医療情報交換会・相談会（対象：福島）	開催日	19年7月6日
会場	<郡山市ビッグパレット福島> 福島県郡山市	参加人数	60人
内容	内容：「東北ブロック拠点病院連絡会議・福島地区」		

相談会名	医療相談会（対象：青森）	開催日	19年9月8日
会場	<古牧第2グランドホテル> 青森県三沢市	参加人数	14人
内容	内容：「青森医療等相談会」		

相談会名	医療情報交換会・医療相談会（対象：東北）	開催日	20年1月10日
会場	<仙台医療センター会議室> 宮城県仙台市	参加人数	10人
内容	内容：東北ブロック拠点病院三者協議前の事前相談会。患者・家族が参加し、仙台医療センターの医療設備や環境などの相談を行う。		

#### <関東・甲信越地区>

相談会名	医療情報交換会・相談会（対象：全国）	開催日	19年6月30日
会場	<国立国際医療センター> 東京都新宿区	参加人数	36人
内容	内容：「ACC/ブロック拠点病院看護管理者との情報交換会」最近の医療環境や看護等、また患者の病状把握などについて。		

相談会名	医療情報交換会・相談会（対象：全国）	開催日	19年7月7日
会場	<丸の内マイプラザホール> 東京都千代田区	参加人数	20人/150人

内 容	内容：「ACC開設10周年記念シンポジウム」最新のHIV医療や専門医療者との情報交換、及び患者の交流。		
-----	---	--	--

相 談 会 名	医療情報交換会・相談会（対象：全国）	開 催 日	19年7月8日
会 場	<国立国際医療センター> 東京都新宿区	参加人数	80人
内 容	内容：「ACCクラブ勉強会」ACCに通院する患者を対象に、HIV治療の初歩的勉強（ビギナーコース）や最新の治療薬や医療（アドバンスコース）の勉強と意見交換・相談会。		

相 談 会 名	医療情報交換会・医療相談会（対象：甲信越・首都圏／全国）	開 催 日	19年10月1日
会 場	<国立国際医療センター研修室>東京都新宿区	参加人数	14人
内 容	内容：ACC運営協議会を開催する前に、首都圏在住及び全国から出向いた患者家族から、医療の現状と要望を聞く。		

相 談 会 名	関東・甲信越地域医療相談会（対象：関東・甲信越）	開 催 日	19年11月16日
会 場	<新潟県勤労福祉会館> 新潟県新潟市	参加人数	10人
内 容	内容：「関東・甲信越ブロック協議事前相談会」関東・甲信越地域在住の患者・家族によるブロック拠点病院等の医療についての事前相談会・情報交換会。		

相 談 会 名	医療情報交換会・相談会「第21回日本エイズ学会」（対象：全国）	開 催 日	19年11月28日 ～30日
会 場	<広島国際会議場> 広島県広島市	参加人数	20人
内 容	内容：「第21回日本エイズ学会・学術集会」HIV治療意欲について患者主催の発表を行い関連して医療情報交換や相談を行う。		

相 談 会 名	医療情報交換会・相談会（対象：全国）	開 催 日	20年1月15日
会 場	<ウイメンズプラザ>東京都渋谷区	参加人数	12人
内 容	内容：「関東・甲信越ブロック医療講演会」事前・事後相談会。参加した患者・家族から医療の相談や近況相談を行う。		

相 談 会 名	医療情報交換会・相談会（対象：全国）	開 催 日	20年3月4日
会 場	<弁護士会館> 東京都千代田区	参加人数	16人
内 容	内容：中央運営協議会、医療協議前に全国の医療状況の意見交換と具体的相談事例について話し合う。		

相 談 会 名	医療情報交換会・医療相談会（対象：東海・中部）	開 催 日	19年11月5日
会 場	<名古屋医療センター会議室>愛知県名古屋市	参加人数	8人
内 容	内容：東海ブロック拠点病院三者協議前の事前相談会。患者・家族が参加し、名古屋医療センターの医療環境などの相談を行う。		

<九州地区>

相 談 会 名	医療情報交換会・医療相談会（対象：九州）	開 催 日	20年1月18日
会 場	<九州医療センター会議室>福岡県福岡市	参加人数	15人
内 容	内容：九州ブロック拠点病院三者協議前の事前相談会。患者・家族が参加し、九州医療センターの治療・医療環境などの相談を行う。		

## 資料6. 地方相談会

### <北海道地区>

相談会名	<地方相談会>遺族・患者・家族相談会 (対象:札幌市)	開催日	19年8月25日
会場	<北海道高等学校教職員センター> 北海道札幌市	参加人数	20人
内容	(北海道支部) 葉害根絶デー札幌の集まりで		

相談会名	<地方相談会>「札幌市長へHIV感染症問題と検査・相談センターの話し合い後の相談会」(対象:北海道)	開催日	19年11月29日
会場	<札幌市庁舎> 北海道札幌市	参加人数	10人
内容	(北海道支部) HIV検査・相談や啓発について話し合う		

相談会名	<地方相談会>「札幌HIV検査・相談室開設に伴う相談・情報交換会」(対象:札幌)	開催日	19年12月1日
会場	<札幌HIV検査・相談室「サークルさっぽろ」北海道札幌市	参加人数	15人
内容	(北海道支部)「サークルさっぽろ」のスタッフらとHIV啓発について話し合う		

相談会名	<地方相談会>「地域相談会 サークルさっぽろ開設記念式・相談会」(対象:北海道)	開催日	19年12月7日
会場	<ホテルポールスター札幌> 北海道札幌市	参加人数	40人
内容	(北海道支部/本部) HIV検査・相談室開設で北海道や東京から集まった人たちと話し合う。		

相談会名	<地方相談会>「HIV感染者就労のための協働シンポジウム報告会での相談・交流会」(対象:北海道)	開催日	20年3月11日
会場	<札幌アспенホテル> 北海道札幌市	参加人数	15人
内容	(本部・北海道支部) 就労シンポジウム報告を全国4ヶ所で普及啓発		

### <東北地区>

相談会名	<地方相談会>「HIV感染者就労のための協働シンポジウム報告会での相談・交流会」(対象:東北)	開催日	20年2月5日
会場	<ハーネル仙台> 宮城県仙台市	参加人数	20人
内容	(本部・東北支部) 就労シンポジウム報告を全国4ヶ所で普及啓発		

### <関東・甲信越・北陸近畿・中国四国・沖縄地区>

相談会名	<地方相談会>遺族・患者・家族相談会「関西・四国被害者相談会」(対象:近畿・中国四国)	開催日	19年4月3日
会場	<グランドパレス徳島> 徳島県徳島市	参加人数	7人
内容	(本部) 近畿や四国地域の特に遺族を対象に相談会を開く		

相談会名	<地方相談会>遺族・患者・家族相談会「沖縄地域被害者相談会」(対象:沖縄)	開催日	19年5月31日
会場	<サンホテル沖縄> 沖縄県那覇市	参加人数	5人
内容	(本部/沖縄) 患者には個別の医療・生活相談を行い、遺族は地域の話し合いの機会を持つ。		

相談会名	<地方相談会>「葉害エイズ情報交換会・献血への理解」(対象:東京及び周辺地域)	開催日	19年6月7日
------	---	-----	---------

会場	<東京都エイズ啓発拠点 ふぉー・てい> 東京都豊島区	参加人数	7人
内容	(本部) 薬害エイズ被害を通して献血の大切さとその献血血液安全性確保を話す		
相談会名	<地方相談会>地域遺族相談会 (対象:長野県)	開催日	19年7月1日
会場	<松本ツーリストホテル> 長野県松本市	参加人数	6人
内容	(本部) 長野県の遺族対象とした地域遺族相談会。遺族の悲哀や孫に伝わる血友病治療の相談等		
相談会名	<地方相談会>「HIV感染者就労のための協働シンポジウム」(対象:全国)	開催日	19年10月14日
会場	<灘尾ホール> 東京都千代田区	参加人数	150人
内容	(本部) HIV感染者が偏見・差別のない就労環境のもとで働くアピールの場とし、患者や家族との話し合いもできた		
相談会名	<地方相談会>患者・家族相談会 (対象:東京)	開催日	19年10月18日
会場	<本部相談室2> 東京都新宿区	参加人数	4人
内容	(本部) HIV意識や生活状況などインタビュー調査事前の説明と意見交換会		
相談会名	<地方相談会>「第4回はばたきメモリアルコンサートについて国会議員との懇談」(対象:東京)	開催日	20年1月30日
会場	<衆参国会議員会館> 東京都千代田区	参加人数	
内容	(本部) コンサート案内とHIV感染者の実情などの意見交換		
相談会名	<地方相談会>「HIV感染者就労のための協働シンポジウム報告会での相談・交流会」(対象:広島県)	開催日	20年2月18日
会場	<広島市アステールプラザ> 広島県広島市	参加人数	20人
内容	(本部) 就労シンポジウム報告を全国4ヶ所で普及啓発		
相談会名	<地方相談会>相談会「薬害エイズメモリアルコンサートを前に」(対象:全国)	開催日	20年2月28日
会場	<日本大学カザルスホール> 東京都千代田区	参加人数	30/300人
内容	内容: メモリアルコンサートに来場の被害者が開演前に近況を語り合う。その中で相談員は意見を聞き取るなど、相談事業に反映させる機会とした。		
	<中部地区>		
相談会名	<地方相談会>患者・家族・遺族相談会 (対象:全国)	開催日	19年7月22日
会場	<長良川国際会議場> 岐阜県岐阜市	参加人数	30人
内容	(中部支部/本部) 原告団総会後の相談会。治療や遺族相談で日頃面識のあまりない人たちと直接相談する機会		
相談会名	<地方相談会>患者・家族・遺族「慢性疾患セルフマネジメントプログラム説明会」(対象:愛知・岐阜県)	開催日	20年1月19日
会場	<名古屋国際センター> 愛知県名古屋市	参加人数	12人
内容	(本部/中部支部) 自立を目指してエンパワーメント向上への試み		

相 談 会 名	<地方相談会>「HIV 感染者就労のための協働シンポジウム報告会/相談・交流会」(対象:愛知・岐阜県)	開 催 日	20年1月22日
会 場	<ハーネル仙台> 宮城県仙台市	参加人数	15人
内 容	(本部/中部支部) 就労シンポジウム報告を全国4ヶ所で普及啓発 <九州地区>		

相 談 会 名	<地方相談会>地域遺族相談会(対象:福岡・山口県)	開 催 日	19年6月3日
会 場	<アクロス福岡> 福岡県福岡市	参加人数	7人
内 容	(本部/九州支部) 福岡県・山口県を主として遺族の相談会を企画実施		

▽各ブロック三者協議の前に、地域の患者・家族の医療に関する相談を受けて各ブロックの医療協議に反映させた。弁護士も参加。

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:北陸/全国)	開 催 日	19年10月31日
会 場	<石川県立中央病院会議室> 石川県金沢市	参加人数	10人

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:東海/全国)	開 催 日	19年11月5日
会 場	<名古屋医療センター会議室> 愛知県名古屋市	参加人数	10人

相 談 会 名	医療相談会(対象:関東・甲信越/全国)	開 催 日	19年11月16日
会 場	<新潟県勤労福祉会館> 新潟県新潟市	参加人数	10人

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:東北/全国)	開 催 日	19年1月10日
会 場	<仙台医療センター会議室> 宮城県仙台市	参加人数	10人

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:近畿/全国)	開 催 日	19年12月19日
会 場	<大阪医療センター会議室> 大阪府大阪市	参加人数	25人

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:北海道/全国)	開 催 日	19年12月7日
会 場	<ホテル札幌ガーデンホテル> 北海道札幌市	参加人数	20人

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:中国四国/全国)	開 催 日	20年1月30日
会 場	<鯉城会館> 広島県広島市	参加人数	10人

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:関東・甲信越/全国)	開 催 日	19年12月26日
会 場	<ウイメンズプラザ> 東京都渋谷区	参加人数	20人

相 談 会 名	医療講演会・相談会(対象:九州/全国)	開 催 日	20年1月18日
会 場	<九州医療センター会議室> 福岡県福岡市	参加人数	15人

#### 資料7. 研修会事業

開 催 日	平成19年4月12日	参加人数	10人
研修会名	相談事業研修	会 場	本部相談室2(東京都新宿区)
主 な 事 項	内容:「19年度相談事業実施と事務手続き等の研修」		

開 催 日	平成19年5月31日	参加人数	6人
研修会名	相談ケース合同カンファレンス	会 場	本部相談室2(東京都新宿区)
主 な 事 項	① 内容:「19年度相談事業について。合同ケースカンファレンスと遺族相談会カンファレンス」		

開催日	平成19年7月11日	参加人数	6人
研修会名	HIV感染症・患者家族医療福祉の地域連携相談研修	会場	新宿保健所（東京都新宿区）
主な事項	内容：患者家族・遺族等、社会資源活用や医療・福祉の研修		

開催日	平成19年7月12日	参加人数	15人
研修会名	相談員事務書面の取り扱い、社会福祉法人としての相談事業	会場	飯田橋レインボービル2B（東京都新宿区）
主な事項	内容：社会福祉法人としての相談事業の認識と、救済事業を担当する相談事業の事務書面等の取り扱いと相談事業の根幹について。生命の扱い最優先。（講師：仁科豊 弁護士）		

開催日	平成19年11月16日	参加人数	7人
研修会名	全国遺族担当相談員・専門相談員会議	会場	本部相談室2（東京都新宿区）
主な事項	内容：「遺族相談会等次年度計画について」①遺族相談会の在り方 ②今後の遺族相談の計画		

開催日	平成20年1月28日	参加人数	14人
研修会名	全国相談員会議	会場	本部相談室2（東京都新宿区）
主な事項	内容：相談員面接において提案・要望を聞く。次年度相談事業計画		

## 資料8. その他

- ・平成19年度エイズ予防財団「血液凝固異常症全国調査運営委員会」参加
- ・平成19年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「血液凝固異常症のQOLに関する研究」血液凝固異常症QOL調査運営委員会参加

### ・シンポジウム・講演会

シンポジウム名	「HIV感染者就労のための 協働シンポジウム」 (対象：全国)	開催日	19年10月14日
会場	<灘尾ホール> 東京都千代田区	参加人数	120人
内容	(本部) HIV感染者の就労偏見を変えること、HIV感染者が社会に一步踏み出す前向きな姿勢を関係者の協働で支援を呼びかけ		

講演会・フォーラム名	医療安全推進週間 公開フォーラム「みんなで創ろう、私たちの医療 -患者・医療者・地域社会の取組み」(対象：全国)：厚労省、医療の質・安全学会、WHO	開催日	19年11月25日
会場	<東京国際フォーラム> 東京都千代田区	参加人数	200人
内容	(本部) 患者本位の医療を目指す患者・医療者・地域社会の取組み、パネル討議「パートナーシップに基づく新しい医療の形を創るために」、展示「私たちの活動」		

シンポジウム名	エイズ学会第21回学術集会シンポジウム「HIV陽性者の治療認識」(対象：全国)	開催日	19年11月28日
会場	<広島国際会議場 第2会場> 広島県広島市	参加人数	100人
内容	(本部) 医療現場と自助活動の連携・協働の可能性を探る。HIV感染者当事者団体が共催。		

シンポジウム名	札幌HIV検査・相談室「サークルさっぽろ」オープン記念の会・講演会（対象：北海道）	開催日	19年12月7日
会場	<ホテルポールスター札幌> 北海道札幌市	参加人数	40人
内容	（北海道支部・本部）薬害エイズ被害当事者が自ら運営するHIV検査・相談室を開設、検査・相談をより身近にする啓発の一步を踏み出す		

シンポジウム名	患者中心の医療を考える国際シンポジウム「患者の声をいかに医療政策決定プロセスに反映させるか」（対象：全国）	開催日	19年12月15日
会場	<日本経団連会館 国際会議場> 東京都千代田区	参加人数	300
内容	（本部）日本製薬工業協会主催；患者の声を医療政策に反映させるあり方検討会（同検討会委員参加）		

講演会名	東京都エイズ啓発拠点事業「ふぉー・ていー」ワークショップ「エイズ被害から訴える献血の大切さ」（対象：東京都）	開催日	19年6月7日
会場	<ふぉー・ていー> 東京都豊島区	参加人数	6人
内容	（本部）患者のための献血 献血の安全を、社会全体で守ろう		

講演会名	埼玉地区社会教育担当社会 人権教育研修会「薬害問題と人権について」（対象：埼玉・東京都）	開催日	19年12月14日
会場	<春日部市教育センター> 埼玉県春日部市	参加人数	20人
内容	（本部）薬害エイズから考える人権について		

講演会名	HIV感染者のための就労協働シンポジウム報告会・名古屋（対象：東海・中部）	開催日	9月23日
会場	<名古屋国際センター> 愛知県名古屋市（本部・中部支部）	参加人数	15人
講演会名	HIV感染者のための就労協働シンポジウム報告会・仙台（対象：東北）	開催日	9月23日
会場	<ハーネル仙台> 宮城県仙台市（本部・東北支部）	参加人数	15人
講演会名	HIV感染者のための就労協働シンポジウム報告会・広島（対象：中国・四国）	開催日	9月23日
会場	<広島市文化財団アステールプラザ> 広島県広島市（本部）	参加人数	15人
講演会名	HIV感染者のための就労協働シンポジウム報告会・札幌（対象：北海道）	開催日	9月23日
会場	<札幌アスペンホテル> 北海道札幌市（本部・北海道支部）	参加人数	15人